

2010.10.14.

第51回中国四国地区大学図書館研究集会

教員との連携による 大学図書館のサービスづくり

三重大学 高等教育創造開発センター
長澤 多代

本日の発表内容

1. 大学教育改革と図書館
2. 教員と連携した学習支援の例
3. 教員に対する教育活動の支援の例
4. 大学や教員のニーズの把握
5. 図書館員による教員へのアプローチ

1. 大学教育改革と図書館

1.1 大学教育改革の背景

- ・知識基盤社会の到来
- ・学習成果を重視する国際的な動向
- ・18歳人口の急激な減少
- ・大学数の増加

知識基盤社会：

新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会

1.2 大学における教育の質保証

「三つの方針」の明示

- ①学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー, DP)
- ②教育課程編成・実施の方針
(カリキュラム・ポリシー, CP)
- ③入学者受け入れの方針
(アドミッション・ポリシー, AP)

各学部や学科でどのような人材を育成するのか

e.g. 愛媛大学, 山口大学

1.3 単位の実質化①

単位制度の趣旨

「学生がいかなる授業科目を選択しようとも、授業時間数を基礎に算出した単位数が同じであれば、学習内容・成果も同程度に評価する」

1単位

= 標準45時間の教室内外の学習を要する教育内容

1単位あたりの教室内の学習時間

講義・演習 15～30時間の範囲
実験・実技・実習等 30～45時間の範囲

1.3 単位の実質化②

「現在の単位制度は、教室における授業と事前・事後の準備学習・復習を合わせて単位を授与するものであり、学生の自主的な学習が求められる。このため、教室における授業だけでなく、授業の前提として読んでおくべき文献を指示するなど学生が事前に行う準備学習・復習についても指示を与えることが教員の務めである。」

「教室外における学習を徹底させ、学生が主体的な学習に十分取り組むことができるようにするためには、指導を担当する個々の教員の努力に加え、図書館の座席数や必読図書の所要冊数の確保、開館時間や開館日、貸出期間など施設・設備利用の面を含め、学生が学習する場としての大学の学習環境の整備にもこれまで以上に留意する必要がある。」

(大学審議会答申, 1998)

1.3 単位の実質化③

1単位は①と②の合計で標準45時間の学修を要する学習内容

- ① 教員が教室等で授業を行う時間
- ② 学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間

1単位＝標準45時間の根拠

8時間×5日(月～金曜日)+5時間(土曜日)
45時間＝1週間の学習時間に相当

1.4 学生の学習時間①

◆文部省の調査(1995年)

1週間の学習時間

	授業への 出席時間	その他の 学習時間	合計
全体	19.3時間	7.2時間	26.5時間
自然科学系	22.3時間	7.9時間	30.2時間
社会科学系	15.8時間	6.0時間	21.8時間

◆内閣府の調査(2001年)

「普段、学校以外で1日に何時間勉強しているか」

ほとんどしていない(47.5%)

約30分(12.2%), 約1時間(19.3%)

1.4 学生の学習時間②

◆総務省の調査(2006年)

1日あたりの平均学習時間(土日を含む, 平日のみ)

	小学校	中学校	高校	短大・ 高専	大学・ 大学院
学業の時間+学業 以外の学修時間	5時間 17分	6時間 30分	6時間 23分	4時間 59分	4時間 4分
	6時間 55分	8時間 4分	7時間 42分	6時間 14分	5時間 1分
うち、学業の時間	4時間 41分	5時間 35分	5時間 27分	4時間 27分	3時間 30分
	6時間 19分	7時間 10分	6時間 45分	5時間 41分	4時間 28分

1.5 大学の質の保証への対応①

大学教員の役割

- ・教室内外で双方向性のある学習を設計する。
- ・授業外学習(予習, 復習, 課題)について,
シラバスによって十分な指示を与える。

大学の役割

- ・履修制度の上限を設定する(キャップ制)
- ・成績評価を厳格化する。 e.g. GPA
- ・授業外の学習環境(図書館などの物理的環境, eラーニングなどの仮想的環境)を整備する。

1.5 大学の質の保証への対応②

大学図書館の役割

学習成果の向上

初年次教育科目における図書館ガイダンス
科目関連の情報利用指導(科目関連指導)
パスファインダー

授業外(教室外)の学習時間を確保するための学習支援
環境の整備

ラーニング・コモンズ

FD(ファカルティ・ディベロップメント)等による教員の支援
FDのアプローチを取り入れた教育支援

SD(スタッフ・ディベロップメント)等による専門性の向上
求められる専門能力の検討と資質開発

2. 教員と連携した 学習支援の例

2.1 科目関連指導とは

- 学科関連指導 (course-related instruction)
- 「ある学科目の学習・研究の課題において必要とされる情報探索法・整理法・表現法を学ばせる指導方式を指す。通常、教員から要請されて図書館員がその授業時間の一部を使って指導を行う。」
(『図書館利用教育ガイドライン』1998)

2.2 科目関連指導の到達目標

- 学生が、図書館や図書館員が自分たちの学習活動を支援する機関(職員)であることを認識する。
- 学生が、情報を利用するプロセス(情報探索, 情報整理, 情報表現)の全体像を理解する。
- 学生が、情報を探索するのに有用な道具(目録やデータベースなど)を理解し, 利用できる。

2.3 科目関連の情報利用指導①

説明3	授業の一部を用いて実施する図書館員による情報利用に関する指導のこと。演習を含む。
内容	図書館の三大資源: 一次資料, 二次資料, 図書館員 論理演算: AND検索, OR検索, 前方一致, 後方一致 データベースの検索法: OPAC(オンライン蔵書目録) 図書, 雑誌(論文), 新聞記事 複写・取り寄せ(ILL)サービス 引用, 著作権, 剽窃(ひょうせつ)

2.3 科目関連の情報利用指導②

方法	<p>①シラバスを読んだり, 教員と打ち合わせをして, 図書館員がレポート課題に関するテーマを理解する。</p> <p>②授業の中で, レポート課題のテーマに関する情報の探索法について説明し, 演習する(1回分の授業時間などを使用する)。</p> <p>教える好機 (teachable moment) に実施する (=テーマが確定した直後)</p>
例	<p>三重大学: 情報ガイダンス</p> <p>アールム・カレッジ: course integrated instruction</p>

2.4 科目関連指導の設計

- ① 図書館員が, 学期の始まる2-3週間前に, 講義要綱から支援対象とする科目を抽出する。
- ② 図書館員が, ①の担当教員に, 図書館員による支援の必要性を確認し, 実施日を決定する。
- ③ 図書館員は, 科目のシラバスを読み, 課題のテーマに関する一次資料や二次資料, データベースを検討して**パスファインダー**を作成し, Web上で公開する。
- ④ 指導当日には, 図書館員が, パスファインダーを示しながら, 二次資料やデータベースを用いた情報の探索法, 情報の入手法について説明する。

2.5 科目関連指導の実施の要点

- 課題探求型の課題 (research assignments) を与える科目を重点的に支援する。
- 「**教える好機** (teachable moment = テーマを設定した直後)」に学習支援を実施する。
- 一般的なテーマではなく、科目で与えられた**課題のテーマ**に関する科目関連指導を実施する。
- 実施した数ではなく、**個々の教員の満足度**に重点を置く。

2.6 科目関連指導の利点

教員にとっての

- 科目関連指導を受けた学生は質の良い課題を提出するために、成績評価の作業が楽になった。
- 専門分野に関する新しい知識を入手し続けるには多大な労力が必要になる。科目関連指導によって、教員も、専門分野の最新動向を知ることができる。

(いずれも、アールム・カレッジの教員による報告)

2.7 パスファインダーとは

- 情報を探索するための道案内
(path+finder)
- 特定のトピックに関する資料・情報を系統的に集める手順をまとめた一枚もののリーフレットのこと。
- 系統だった調査の手順を示し、さまざまな特徴をもった多様な情報源を案内する。

2.8 パスファインダーの要点

- トピックが大きすぎると利用しにくい
- 各科目や課題の主題を反映させたパスファインダーの作成
- 開講年度と科目名を見出しにして図書館のWeb上で公開

例) 名古屋大学「授業資料ナビ」
アールム・カレッジ「◆」

3. 教員に対する 教育活動の支援の例

3.1 教育支援の目標と方法

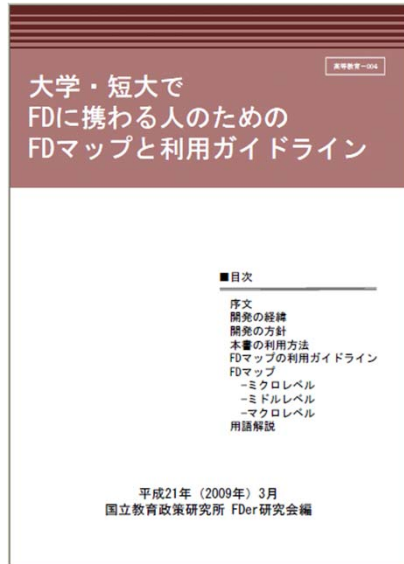
主な到達目標

- 教員が、図書館が学習・教育支援機関であることを認識する。
- 教員が、課題探求のプロセスにおける情報利用の注意点と対策について理解する。
- 教員が、課題探求型の授業スタイルを支援する教材を作成できるようになる。
- 教員が、自身の情報リテラシーを向上させる。

主な方法

ニュースレター, レファレンス・サービス,
ワークショップ, コンサルティング

3.2 FDマップと利用ガイドライン①



<主な内容>

- FDマップの利用ガイドライン
- FDマップ
ミクロレベル
ミドルレベル
マクロレベル
- 用語解説

3.2 FDマップと利用ガイドライン②

横軸(レベル): FDを実施する対象

縦軸(フェーズ): FDを実施する対象者の段階

レベル フェーズ	ミクロ 個々の教員			ミドル 教務委員			マクロ 管理者		
	目標	方法	評価	目標	方法	評価	目標	方法	評価
I. 導入 (気づく・わかる)									
II. 基本 (実践できる)									
III. 応用 (開発・報告できる)									
IV. 支援 (教えられる)									

3.3 新任教員の支援

新任教員への図書館サービス案内状の送付(アールム・カレッジ)	
内容	<p>着任が決まった教員に図書館のサービスを紹介した手紙を送付する。</p> <p>授業に必要な文献があればいつでも購入できること、図書館がいつでも支援できることを伝える。</p>
新任教員オリエンテーション(三重大学, 長崎大学)	
内容	<p>新任教員オリエンテーションの一環として、「図書館の利用法」についてガイダンスをする。</p> <p>短時間で、附属図書館がいかに学生の学習活動や教員の教育活動を支援できるのかを伝える。</p> <p>附属図書館のアピール・ポイント(例として、コレクション、建物やスペース、歴史など)を伝えるのもよい。</p>

3.4 教育開発ワークショップ

教育開発ワークショップ(アールム・カレッジ)	
説明	1日規模のワークショップによって、教員と図書館員が レポート課題など課題探求型の課題の設定や指導方法 について検討する。
目的	<ul style="list-style-type: none"> •教員が情報資源や課題探求型の課題について理解を深める。 •教員と図書館員、教員同士が情報交換をする機会を設ける。
内容	<ul style="list-style-type: none"> •新しい情報資源と新しい課題 •研究プロセスの指導 •特定の分野の情報探索法 •剽窃(ひょうせつ)

3.5 FDワークショップ

FDワークショップ(長崎大学)	
説明	2時間のワークショップによって、図書館員が教員にパス・ファインダーの構成と多様なデータベースを説明し、これをもとに教員がパス・ファインダーを作成する。
目的	<ul style="list-style-type: none"> •教員が、学生の情報探索を支援するツールとしてパスファインダーの存在を知る。 •教員が、パスファインダーの役割や構成、情報探索の道具について理解を深める。 •教員と図書館員が顔を合わせる機会を設ける。
内容	パスファインダーの説明と演習 各種データベースの説明

3.6 FDガイド

必要な情報にさっとアクセスできるように、
トピック別に背景や要点を簡潔にまとめた1枚もののガイド



名古屋大学版 <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/facultyguide/>
三重大学版 <http://www.hedc.mie-u.ac.jp/edguide/edguide.html>

4. 大学や教員の ニーズの把握

4.1 図書館員の役割

大学の中心＝教育・学習のプロセス

図書館員

＝教育・学習プロセスの成果を向上させる
“**ファシリテーター**”となる。

所属する機関の学生や教員のニーズを予測
した上で、教員に連携をはたらきかける
“**事前対策的なアプローチ**”をとる。

4.2 大学全体のニーズの把握

大学全体の教育計画
全学の教務委員会の議事の確認

「シラバス」

→学生用の推薦図書ほか学習支援の案内をする

「学習スペース」

→ラーニング・コモンズに関する情報を提供する。

アプローチの対象：
全学の学務部，教務課，理事（教育担当）

4.3 各部局のニーズの把握

3つの方針の「ディプロマ・ポリシー」
図書館と関連するポリシーの確認

「課題探求」等

→課題探求のプロセスと情報利用の
関係に関する情報を提供する。

「初年次教育」

→図書館ガイダンスの案内をする。

アプローチの対象：
各部局の部局長，教務委員，FD委員

4.4 教員団のニーズの把握

大学全体の学習・教育支援
図書館との関連が深い支援の確認

「**新入生オリエンテーション**」「**新任教員研修**」
→図書館によるオリエンテーションの実施を提案する。
「**FDワークショップ**」
→図書館による企画を提案する。

アプローチの対象：
FD担当者, FD委員会の委員,
理事(教育担当), 人事課

4.5 教員のニーズの把握

シラバス(講義要綱)
図書館との関連が深い科目の確認

「**レポート**」「**プレゼンテーション**」
→科目関連指導の案内をする。
→パスファインダーの作成を提案する。
→レファレンスその他図書館サービスを紹介する。
→情報利用プロセスと図書館の関係に関する情報を提供する。

アプローチの対象:個々の教員

5. 図書館員による 教員へのアプローチ

5.1 アプローチ:科目編①

- “**課題探求型の課題**”（レポートや口頭発表）を与える科目を支援する。
- 科目の学習到達目標や課題のテーマなど“**個別性に対応**”した学習支援を実施する。
- 学習の効果が最も高いと言われる“**教える好機**”に学習支援を実施する。

5.1 アプローチ:科目編②

- “まずはひとりの教員が満足すること”を目指す。
- 各図書館員が“担当する教員を特定”する。

5.2 アプローチ:教育支援編①

- 新任教員へのアプローチに重点を置く。
- “大学や学内の学習・教育支援組織が計画するプログラム”の一部に教育支援を組み入れる。
- 教員と図書館員が連携した授業のモデルを“教員が他の教員に紹介する”機会を設ける。

5.2 アプローチ:教育支援編②

- “面倒くさいという印象”を与えない。
- 参加や利用を“強制しない”。
- **FD**を担当するセンターや委員会と連携して企画・実施する。

5.3 アプローチ:その他

- “**インフォーマル**”な場で、教員と交流する機会をもつ。(食堂, 交流会, 食事会など)
- 図書館員が, “**図書館外において広く活動する**”(学内講師, 学内の委員会の委員, 学会等における発表など)。
- 「北風と太陽」の**太陽のアプローチ**を目指す。

主な参考文献

- 中央教育審議会『学士課程教育の構築に向けて』(答申) 2008.12.24.
- 大学教育審議会『21世紀の大学像と今後の改革方策について: 競争的環境の中で個性が輝く大学』(答申) 1998.10.26.
- Hardesty, Larry ed. Bibliographic Instruction in Practice: A Tribute to the Legacy of Evan Ira Farber. Ann Arbor, Pierian Press, 1993, 157p.
- 長澤多代「アラム・カレッジの図書館が実施する学習・教育支援に関するケース・スタディ」『Library and Information Science』 No.57, 2007, p.33-50.
- 長澤多代「学習支援・教育支援としての指導サービス: 日米における事例」日本図書館協会図書館利用教育委員会編『情報リテラシー教育の実践』日本図書館協会, 2010, p.109-127.

主な参考文献〔追加文〕

- Earlham College Library「Course Guides」
〔<http://earlham.libguides.com/cat.php>〕
- 愛媛大学「各学部・学科・コースにおけるアドミッション・ポリシー、カリキュラム・マップ、カリキュラム・アセスメント・チェックリストの策定」
〔<http://web.iess.ehime-u.ac.jp/kensyukai/itiran.html>〕
- 名古屋大学「授業資料ナビ」〔<http://pathfinder.nul.nagoya-u.ac.jp/>〕
- 長澤多代「基調発表 大学教員と図書館員が連携した情報リテラシー教育を実現するためのアプローチ」『平成20年度第94回 全国図書館大会 兵庫大会記録』2009.3, p.61-64. 〔<http://miuse.mie-u.ac.jp:8080/handle/10076/10189>〕
- 山口大学・大学教育センター「全学GP等」 URLについては、2010.11.4.に最終確認
〔<http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp/gp.html>〕

連絡先

長澤 多代 (NAGASAWA Tayo)

〒514-8507

三重県津市栗真町屋町1577

三重大学 高等教育創造開発センター

TEL (059)231-5621

FAX (059)231-5597(共用)

E-mail nagasawa@hedc.mie-u.ac.jp

URL <http://www.hedc.mie-u.ac.jp/nagasawa/>